場合のものに限る。異工種の特定建設工事共同企業体の構成員としての実績は、協定書の分担工事の実績のみ同種工事の実績として認める。この場合、協定書の写しを技術評価資料に併せて提出すること。）

なお、求める実績１に対して提出できる施工実績は１件とする。

①　単体又は特定建設工事共同企業体（甲型）を構成する場合の代表者

求める実績１

鋼トラス橋の補修・補強又は新設を行った工事

②　特定建設工事共同企業体（甲型）を構成する場合の代表者以外

求める実績１

橋梁の補修・補強又は新設を行った工事

⑸　配置予定の技術者等　次に掲げる基準を満たす主任（監理）技術者及び現場代理人を当該工事に専任で配置できること。ただし、経験が中日本高速道路株式会社が発注し、しゅん功認定された工事（旧ＪＨが発注し、しゅん功認定された工事を含む。）である場合にあっては、評定点合計が65点未満のもの並びに国、地方公共団体及び他の機関が発注した工事である場合にあっては、工事成績評定が一定の点数未満であるために当該機関の競争入札において施工実績として認めていないものを除く。

なお、専任を要する期間は、工事現場が稼働（準備工を含む）している期間とする。

①　主任（監理）技術者にあっては、入札参加希望者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあること。なお、恒常的雇用関係とは、技術資料提出日以前に３ヶ月以上の雇用関係にあることをいう。

②　監理技術者にあっては、技術資料の提出時に監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証を有する者であること。

③　主任（監理）技術者が、１級土木施工管理技士又はこれと同等以上の資格を有する者であること。

特定建設工事共同企業体を構成する場合は、構成員毎に上記資格を有する技術者を配置すること。

④　現場代理人、専任の主任（監理）技術者のうち１名以上が、元請けとして完成・引渡しが完了した、下記に示す項目ごとの同種工事の経験を有すること。なお、同種工事の経験を認める対象期間は限定しないものとする。

なお、共同企業体の構成員としての施工実績は、出資比率が20％以上の場合のものに限る。異工種の特定建設工事共同企業体の構成員としての実績は、協定書の分担工事の実績のみ同種工事の実績として認める。

（現場代理人としての実績の場合はこの限りではない。）この場合、協定書の写しを技術評価資料に併せて提出すること。

求める経験１

鋼上部工の補修・補強又は新設を行った工事

⑹　設計管理技術者及び照査技術者が下記のいずれかの技術資格を有すること。

１）①　技術士【建設部門（鋼構造及びコンクリート）】の資格保有者又はこれと同等の能力と経験を有する者。ただし、平成13年度以降の技術士試験合格にあっては、７年以上の技術的業務の実務経験を有し、かつ業務に該当する部門に４年以上従事している者。

②　技術士【総合技術監理部門［建設（鋼構造及びコンクリート）］】の資格保有者

２）③　ＲＣＣＭ【鋼構造及びコンクリート部門】の資格保有者

３）土木学会認定土木技術者（特別上級土木技術者，上級土木技術者又は１級土木技術者）［鋼・コンクリート分野］

なお、外国資格を有する技術者（わが国及びＷＴＯ政府調達協定国その他建設市場が開放的であると認められる国等の業者に所属する技術者に限る。）については、あらかじめ技術士相当又はＲＣＣＭ相当との国土交通大臣認定（総合政策局建設振興課）を受けている必要がある。技術資料提出期限までに当該認定を受けていない場合にも技術資料を提出できるが、この場合、技術資料提出時に当該認定の申請書の写しを提出するものとし、当該業者が競争参加資格の確認を受けるためには競争参加資格確認結果通知の日までに大臣認定を受け、認定書の写しを提出しなければならない。

⑺　競争参加資格確認申請書及び競争参加資格確認資料の提出期限の日から開札の日までの期間に、「中日本高速道路株式会社工事・調査等の資格登録に関する要領」に基づき、「地域２」において、資格登録停止を受けていないこと。

⑻　共同企業体を構成する場合においては、次に掲げる事項を満たしていること。

①　各構成員が当該工事に対する建設業法（昭和24年法律第100号）の許可業種につき、許可を有しての営業年数が５年以上であること。ただし、相当の施工実績を有し、確実かつ円滑な共同施工が確保できると認められる場合においては、許可を有しての営業年数が５年未満であってもこれを同等として取扱うことができるものとする。

②　中日本高速道路株式会社が別に定める共同企業体協定書（甲）による協定書（案）が提出されていること。

③　特定建設工事共同企業体（甲型）で申請する場合の各構成員の出資比率は、２社で構成される場合にあっては30％以上、３社で構成される場合にあっては20％以上であることとし、代表者の出資比率は構成員中最大であること。

⑼　記１に示した工事に係る設計業務等の受注者又は当該受注者と資本若しくは人事面において関連がある建設業者でないこと。

⑽　入札に参加しようとする者の間に資本関係又は人的関係がないこと。（入札説明書参照）

⑾　警察当局から、暴力団員等が実質的に経営を支配する建設業者又はこれに準ずるものとして、公共工事等からの排除要請があり、当該状態が継続している者でないこと。

３　施工技術競争型総合評価方式に関する事項

⑴　施工技術競争型総合評価方式の仕組み

本工事の施工技術競争型総合評価方式は、競争参加申請者から申請時に技術提案及び技術提案のプレゼンテーションを実施する日の前日までに入札書を提出していただき、技術提案の技術評価点が50点以上の者を選定し、選定された者の入札書の開札を行い、中日本高速道路株式会社契約規則（平成18年11月９日付中日本高速道路株式会社規程第25号）第18条における契約制限価格（以下「契約制限価格」という。）を「契約目安価格」と読み替え、選定された者の入札書の開札を行い、契約目安価格の２割増しの範囲内での入札額で最も総合評価点が高い者を落札者とする方式である。

この場合、落札者の提示した価格が契約目安価格を上回る場合は当該価格について確認協議を実施し、確認協議に基づく価格で契約するものとする。確認協議の主目的は、契約目安価格を超えた入札となった場合に、契約目安価格を超えた理由を確認した上で契約するためのものである。

⑵　技術提案を求める範囲　技術提案を求める範囲は、鋼トラス橋耐震補強工とする。

⑶　技術提案及び入札書の提出　申請者は、申請書、確認書等の提出に併せて技術提案（施工計画）を、技術提案のプレゼンテーションを実施する日の前日までに入札書を提出すること。入札書は封書により提出すること。

⑷　技術提案に関する事項　技術提案は、以下の項目について提出するものとし、資料は入札説明書に基づき作成するものとする。

なお、施工計画書の提出がなかった場合、施工計画書の１項目でも不可のある場合は、不適格とする。

１）施工計画

①　管理体制・手法

②　品質管理

③　安全管理

⑸　技術提案の評価項目及び評価指標　技術提案の評価項目及び評価指標は下記のとおりとし、提案書が所定の枚数を超えている場合は「不可」と評価する。

提案書に記載する文字サイズについては原則10ポイント以上を使用するものとする。

また、評価項目①～④に関する提案は、それぞれ最大３提案までとし、その評価項目に対する提案の有効性を、評価指標をもとに、総合的に評価するものとする。なお、所定の提案数を超えている場合はその評価項目に関するすべての提案は「不可」と評価する。

１）施工計画

◆管理体制・手法

①　本工事を適切に実施するための施工体制と期待できる効果